

esplanade

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館

esplanade [エスplanade]
AUTUMN 2026 | NO.225

- 02 アートの処方箋
- 03 所蔵品紹介
- 04 インド更紗の世界をめぐる物語
- 06 Tune in! アートラジオ
- 08 「予測不可能な地球で生きる」私たちへ
- 10 美術館スケジュール(10～12月)



えん こう ほ げつ す
猿猴捕月図 雪村周継(1504～没年不詳)／室町時代 16世紀
紙本墨画・掛幅装／85.5×37.4 cm／松永コレクション

竹の稈にしがみつく二匹の猿。下の猿は、上の猿のサポートを受けて身を持ち出し、画面右下にある半円形をした何かに向けて、左手をいつぱいに伸ばしています。本図の画題は、中国で成立した仏典『摩訶訶僧祇律』巻7所載の説話に基づいています。すなわち、あるとき水面に映る月を見て「月が落ちた」と思い込んだ猿たちが、この世が暗闇に包まれることを恐れ、取り出すことを決断します。そこで樹木の枝から互いに体をつないで下へ連なつてつかもうとするも、できるはずもなく、枝が折れてみな落ちてしまふ、というもの。実体的ないものを追い求めて徒労に終わることの愚かさ、あるいは「身のほど知らず」を戒める寓話として知られる

所蔵品紹介

”身のほど知らず”を戒める

アートの 処方箋

汲めども尽きず湧いてくる、日々のちょっとした悩みごと。その悩み、ドクトル後藤に相談してみよう。



お悩み

欲しいものがあつたら我慢できず、貯金ゼロに。自分の欲をコントロールしたいのですが…

資本主義に翻弄されるCさん(20代)



ドクトル後藤
[後藤恒 学芸課長]

それはいけません。見たい、食べたい、手に入りたい…世の中はあらゆる欲望を刺激するモノやコトであふれ、購買欲を刺激する仕掛けが張り巡らされています。心の奥底に眠る深層欲求までいちいち叩き起こされては散財している状態とあつては、いくらお金があつても足りません。対症療法として、足を知るココロを高める特効薬アートを処方します。

次ページに紹介している《猿猴捕月図》です。この二匹のお猿は、水面に映る月をつかみ取ろうという、できっこないことをしようとしています。本物の月と間違え

てのことで、決してよこしまな動機ではないのですが、すっかり理性を失ってしまったようで、このあと結局どちらにも水に落ちこちてしまうんです。お猿たちの表情は、口をへの字に結んで真剣そのもの。長い腕をめいっばい伸ばし、なんとしても取つてやる!という必死で愚直な姿。いざ、それに自分を重ねてください。そして湧き上がる自省の念を、苦々しさに耐えつつ噛みしめるのです。わたしはこれで、割引シールが貼られた商品にそうやすやすと手を伸ばさなくなりました。

お大事になさってください。

ものです。そう、本図の猿たちがつかもうとしているのは、月のまぼろしです。半円形に、それも没骨法と呼ばれる輪郭線を引かない描法でボンヤリと表現しているのは、そのためです。作者の雪村周継は室町時代後期に活躍した画僧です。迫力十分な仙人図をはじめ、大胆な構図や諸諷味のある表情に特徴がある人物画が有名ですが、身近な動物や植物も多く描いています。本図は、中国南宋(元)時代の画僧・牧谿の作風に倣っています。本図は、中国南宋(元)時代の画僧・牧谿の作風に倣っています。雪村独自のものです。

※本作はコレクション展「秋の名品展」(松永記念館室、10月19日まで開催)で展示中です。

学芸課長 後藤恒

1 修行者がテーマの珍しい更紗

インドの神様を更紗に描いたものはしばしば目にしますが、神に司える修行者を主題とする更紗はほかに類を見ません。菩提樹の実の数珠を首にかけたヒンドゥー教のシヴァ派の修行者が、シヴァ神に捧げるために、白いキョウチクトウの花を摘んでいます。一面に咲くキョウチクトウに取り囲まれて、一心不乱に花を摘む男性のまなざしが印象的です。現在でも、シヴァ派の修行者たちは図の男性と同様の衣装を身に着けています。

《白地人物草花文様更紗儀礼用布》
17-18世紀



2 タイ王室を彩った更紗



タイ王室の発注によってインドで染められた衣装で、王室の兵士が着用しました。背中に描かれた守護神は、ヒンドゥー教の日食の前兆となるラーフ神を表しているといわれています。地の部分には下向きのY字を連ねたような文様が表されています。これは、毘沙門天が身に着けたという金鎖甲と呼ばれる鎧を表しており、日本では毘沙門亀甲文様と呼ばれています。ひとつの文様のなかに、アジアをつなぐ共通の文化が見られます。

《ラーフ神文様更紗上衣(サー・セナクッ)》
18世紀後半

3 ヨーロッパ人が好んだ、人気のデザイン

三角形の岩山から花を咲かせた立木が伸びる文様は、17世紀後半からヨーロッパ市場に向けて制作されたベッドカバーや壁掛用の更紗の中で、最も人気のあるデザインでした。更紗を発注する際に、特に白地に花文様を好んだのは英国人だといわれています。曲がりくねった樹木に咲く花はどれも不思議な形をしていて、チューリップのような花も見られます。ヨーロッパ人の好みとインド人の想像力/創造力が融合して、新しい美が生まれました。

《白地立木形花樹文様更紗掛布(バランポア)》
1740-50年頃



作品はすべて
Karun Thakar Collection, London.
Photo by Desmond Brambley

茜や藍といった染料と媒染剤や防染剤を用いて、木綿という染色の難しい素材に堅牢な染を施す技法は、数千年の昔にインドで生まれました。鮮やかな深紅や澄んだ青色を、肌触りがよくて水洗いができる木綿という生地に染める技術には、ヨーロッパでも太刀打ちできないほどで、インドの技術力は世界の垂涎(すいだん)的でした。世界の人々を魅了した布は、日本では「更紗」、英語では

「チンツ」と呼ばれ、世界をめぐる貿易品となりました。本展は、インド更紗が世界的な商品となつて、数百年の時の流れのなかで変化していく姿を、染織品や工芸品のコレクターとして知られるインド出身で英国在住のカルン・タカール氏のコレクションを中心にした展覧会です。

更紗発祥の地、インドで親しまれた更紗から始まり(第1章・インド地域の更紗)、東南アジア向けに染められた更紗(第2章・初期アジア貿易の更紗)、ヨーロッパからの発注に呼応して作られた更紗(第3章・ヨーロッパ向けの更紗)、そして、日本へと渡つていった更紗とインド更紗を愛した国で生み出された「新たな更紗」(第4章・デザインのグローバル化とローカル化)を展示します。

タカール氏のコレクションはインド更紗の歴史と広がりをたどりうるほどに充実した稀有な個人コレクションであり、本巡回展が日本初公開の機会となります。インド亜大陸で用いられてきた更紗が、貿易で各地に広がることにより、世界共通の美意識をもたらし、それぞれの地域で個性豊かな「インド更紗」を生み出すに至ったさまを、本展出品の名品でご堪能いただければ幸いです。

—— 本展監修 岩永悦子
(福岡アジア美術館館長)

【Info】 カルン・タカール・コレクション インド更紗 世界をめぐる物語

- ◇会期: 10月17日(土)~12月20日(日)
- ◇会場: 2階 特別展示室
- ◇観覧料: 一般1,700円(1,600円)、
高大生1,100円(1,000円)、中学生以下無料
※()内は前売り、20名以上の団体料金

インド更紗の 世界をめぐる物語

インドで生まれた更紗は、美しい染色技術と豊かな文様で人々を魅了し、海を越える交易品として世界へ広がりました。各地の人々の暮らしや美意識を取り込みながら、その土地ならではの姿へと変化します。本展は、日本初公開となるカルン・タカール・コレクションを中心に、更紗がたどった数百年のグローバルヒストリーを紹介します。

企画展 × 福岡現代作家ファイル 2026

「山内光枝展 潮ノ記」

会期：9月8日(火)～12月20日(日)

会場：2階 近現代美術室B

関連事業「作家と海女さんのトーク」

日時：10月12日(月・祝) 14:00～16:00

会場：1階 レクチャールーム

ゲスト：早瀬千春氏(輪島の海女、『潮汐2012-2021』出演)
松尾美智代氏(宗像の海女、『つれ潮』『潮汐2012-2021』出演)

モデレーター：山内光枝氏

詳細はこちら

コントロールを手放した、
その先でDJコブウシ…写真・映像・ド
ロ잉と、手法もさまざま
に使われています。山内…映像を撮るのは、どんど
ん失われる海女の生活文化を
とにかく残さねば！という意識
が強いです。写真には一枚で世界
観を凝縮して伝えられる力があ
る。ドロ잉は、より抽象的
な経験を表現したときに使っ
ているかな。最近フイクション、例えば小
説の可能性も感じています。カ
メラもレコーダーも出せないタイ
ミングで、私が見聞きたことが
たくさんある。個人のプライバ
シーを露出せずにエッセンスを
届ける方法として、文章表現の
もつ可能性を大いに感じてい
ます。

DJコブウシ…長く海を題材に

してきて、ご自身の制作の姿勢
に変化はありましたか？山内…初期はいわゆる「洗練さ
れたインスタレーション」に憧れ
ていて。現場ではすごく豊かな
体験をしているのに、作品をつ
くる時にその豊かさが抜け落ち、
つまんとした作品になってしま
う自覚がありました。転換点になったのは、まさに今
回展示する『つれ潮』(2018
年)という作品です。この制作過
程で初めて「結果を考えずに、
直感に従い身を委ねる」姿勢に
なれたと感じました。台風が来
たり人々の気分が変わったりと
いう大小さまざまな変化の流れ
に抗うのではなく身を委ねて、
「作品が形になるのを邪魔しな
いように」という感覚でした。肩書きではなく、
本気の一人として

DJコブウシ…作品に映ってい

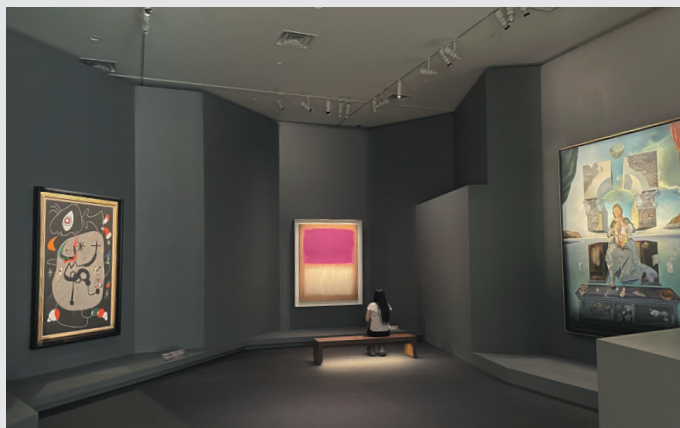
海は「生きることだけになる
場所」DJコブウシ…今回はアーティ
ストの山内光枝さんをお迎えし
ました。企画展「山内光枝展 潮
ノ記」はどんな展覧会ですか？山内光枝…福岡市美術館に所
蔵していただいている作品を公
開すると同時に、今回改めて過
去の作品を現在地から見つめ直
し、出演してくれた方たちにも
連絡を取り直しました。これま
での関係や営みを現在につむぎ
直すという意味で、タイトルの
「記」には日記の「記」のイメージ
を込めています。DJコブウシ…作品の根幹に海
を据えているものが多いですね。山内…裸潜りの海女さんが映っ
た写真と出会ったのがきっかけ
です。惹かれたのは海そのもの
というより、「海と人間との関係性」でした。海というのは、世界
が流動的であることを一番わか
りやすく体現している環境です。
常に変化していて、予測できな
い。海に全身を浸すと呼吸のこ
とで頭がいっぱいになって、そこ
に存在することだけで精一杯に
なります。一瞬でも社会的な属
性がすべて流れ落ち、「命そのも
の」として存在するような環境
で日々を営む人びとの世界観に、
作品を通してどうすれば触れて
もらえるのか。その接点をどの
ように手渡すことができるのか
が、作家として常に試されてい
ることだと感じています。でも、海で生きる人たちだけ
が特別なわけではないんです。
どこにいても、私たちも同じよ
うに、変化する世界の中で生き
ています。ただ海という場所
では、人間が生まれ持った感覚や
感性を活かしながら生きる姿が、
はつきり見える。そこに惹かれ
ているのだと思います。緒に鑑賞するという経験は、貴
重な機会だと思います。どんな
率直な感想が聞けるのか、緊張
しながらも楽しみにしています。
輪島は地震と豪雨災害の影響
で、海底の隆起や土砂で漁場も
限られている状況が今も続い
ています。海で毎日予測できない
ことと向き合いながら生きてき
た方々が、現在進行形のご自身
の経験をどのように受け止めて
いるのか。争いや災害が頻発す
る不安定な世界を生きる私た
ちにとって、新たな知恵や視点
を分かち合う機会となれば嬉
しいです。

『つれ潮』2018年

＼じっくり巡ろう。／

C室 マイナスからプラスへ

C室では、4つのコーナーを巡りながら、「－」から「＋」へ向かう物語をたどります。社会の矛盾や暴力がもたらす混沌や苦悩から、平和への願い、新たに育まれる生命、そして未来へ向かってともに生きる喜びへ。作品を通して、その流れを感じてみてください。



静かなる聖堂——祈りの絵画

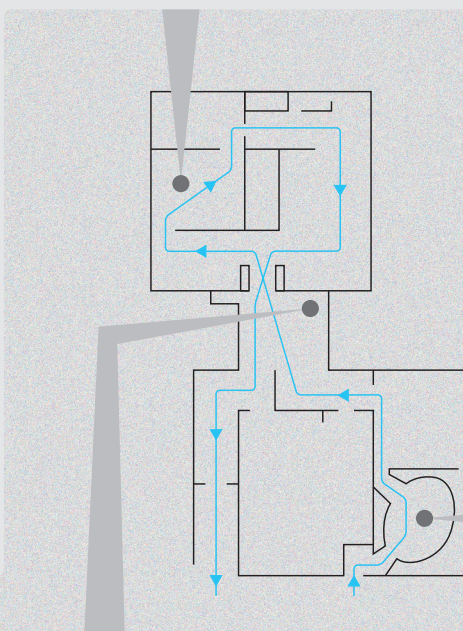
作品が引き立つ大胆な空間演出にもご注目ください。

左から：ジョアン・ミロ《ゴシック聖堂でオルガン演奏を聞いている踊り子》1945年
マーク・ロスコ《無題》1961年
サルバドール・ダリ《ポルト・リガトの聖母》1950年※
※9月25日～1月中旬は、松尾藤代《TOTAL LOSS ROOM》を展示予定

現代を考えるための
4つのテーマで、展示を構成。

- 怒りのつば—暴力・矛盾・混沌
- 静かなる聖堂—祈りの絵画
- 生命いずるところ
—アニッシュ・カプーアと
オチ・オサム宇宙
- 共生の明日へ—飛翔・調和・対話

照明も各部屋のテーマにあわせて
演出されています。



＼ここをって…／

ロビー

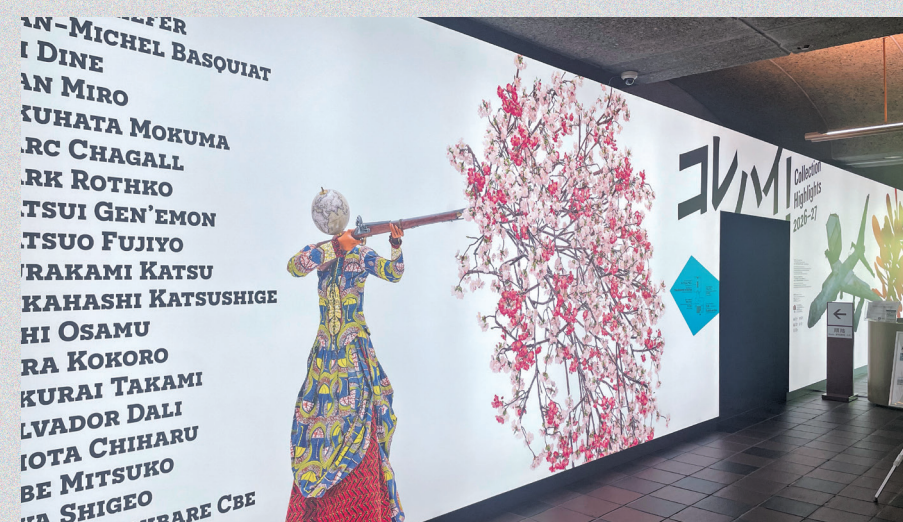
展示室をつなぐ場所に設置されたモナ・ハトゥム《＋とー》にも、ぜひ足を止めてみてください。「＋とー」というシンプルなタイトルから、陽と陰、生と死、創造と破壊など、さまざまな対になるイメージが広がります。この作品は、今回の展示全体を読み解く手がかりにもなっています。



モナ・ハトゥム《＋とー》1994/2024年

福岡市美術館では、年に一度、近現代美術のコレクション展示を大きく入れ替えています。今年度は、展示室の内装も一新し、新たな空間で作品をお楽しみいただけます。

戦争や災害、価値観の違いによる分断など、先の見えない出来事が続く現代。この展示では、アートを通して、平和と戦争、創造と破壊、生と死といったテーマを見つめます。作品との出会いが、いまを生きる私たち自身や未来について考えるきっかけになることを願っています。



展示室入口の様子

＼まずはここから！／

A室 花と銃

最初にご覧いただくのは、インカ・ショニバレCBE《桜を放つ女性》です。花と銃という対照的なモチーフを通して、平和と暴力、創造と破壊、生と死が隣り合わせにある世界を描き出します。この作品から、今回の「コレクションハイライト」の旅を始めましょう。



インカ・ショニバレCBE《桜を放つ女性》2019年

Info

コレクションハイライト
2026-27

[会期]
7月4日(土)～通年展示

[会場]
2階 近現代美術室A・C

コレクションハイライト2026-27

「予測不可能な地球で生きる」私たちへ

10月	11月	12月
1 木 2 金 3 土 4 日 5 月 6 火 7 水 8 木 9 金 10 土 11 日 12 月 13 火 14 水 15 木 16 金 17 土 18 日 19 月 20 火 21 水 22 木 23 金 24 土 25 日 26 月 27 火 28 水 29 木 30 金 31 土	1 日 2 月 3 火 4 水 5 木 6 金 7 土 8 日 9 月 10 火 11 水 12 木 13 金 14 土 15 日 16 月 17 火 18 水 19 木 20 金 21 土 22 日 23 月 24 火 25 水 26 木 27 金 28 土 29 日 30 月 31 火	1 水 2 木 3 金 4 土 5 日 6 月 7 火 8 水 9 木 10 金 11 土 12 日 13 月 14 火 15 水 16 木 17 金 18 土 19 日 20 月 21 火 22 水 23 木 24 金 25 土 26 日 27 月 28 火 29 水 30 木 31 金
9月19日(土)～10月5日(月) ・FaN Week特別展示 コレクターズ展	10月17日(土)～12月20日(日) ・カルン・タカール・コレクション インド更紗 世界をめぐる物語	
6月30日(火)～ ・コレクションハイライト2026-27 (近現代美術室A)		
7月4日(土)～ ・コレクションハイライト2026-27 (近現代美術室C)	日本国内のみならず、欧米やアフリカ、アジア各地にまで題材を探して旅した画家、吉田博。その旅から生まれた詩情豊かな絵画世界を、版画と水彩画で紹介します。	
9月1日(火)～12月20日(日) ・生誕150年 詩と絵の旅人―吉田博 (近現代美術室A)		12月22日(火)～2027年3月22日(月・振休) ・没後90年 富田溪仙(近現代美術室A)
9月8日(火)～12月20日(日) ・企画展×福岡現代作家ファイル2026 山内光枝展 潮ノ記 (近現代美術室B)		12月25日(金)～2027年3月22日(月・振休) ・鋤田正義 ファインダー越しの光(近現代美術室B)
		12月25日(金)～2027年3月22日(月・振休) ・希望は自由なる組織に―デモクラート美術家協会の作家たち(近現代美術室B)
7月29日(水)～11月29日(日) ・仙厓展(古美術企画展示室)		
9月30日(水)～11月29日(日) ・肥前のやきもの ―田中丸コレクションを中心に― (古美術企画展示室)		12月2日(水)～2027年2月7日(日) ・企画展 カンボジアの染織 (古美術企画展示室)
8月11日(火・祝)～10月19日(月) ・秋の名品展 (松永記念館室)	10月22日(木)～1月11日(月・祝) ・松永耳庵 冬の茶事 仰木政斎『雲中庵茶会記』等に残る記録に基づき、松永耳庵が冬の季節に催した茶事の道具組を再現的に展示するほか、冬に相応しい茶道具をご紹介します。	
通期 ・東光院のみほとけ (東光院仏教美術室)		

※コレクション展は展示替えに伴い休室することがあります。来館前にホームページで最新情報をご確認ください。

LECTURE

つきなみ講座

OCTOBER-DECEMBER 2026

毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順(30分前開場) ※定員等は変更になることがあります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。

11月

福岡市美術館の古美術名品解剖

当館には48件の国指定重要文化財をはじめとする約4500件の古美術作品が収蔵されています。それらの概要を紹介し、代表的な作品についてその魅力と価値を詳しく解説します。

野々村仁清《色絵吉野山図茶壺》(重要文化財)

日時：11月21日(土)11:00～12:00
会場：レクチャールーム(定員54名)
講師：後藤恒(学芸課長)

10月

山内光枝展 潮ノ記 見どころ紹介

本展で紹介している作品の魅力や作家のこれまでの活動、本展で初公開される作品のこと、展示作業の様子などについてお話します。

山内光枝《つれ潮》2018年

日時：10月24日(土)15:00～16:00
会場：レクチャールーム(定員54名)
講師：花田珠可子(学芸員・近現代美術係)

12月

カンボジアの絹織物 一緋・織・絞り

カンボジアが世界に誇る、まるで絵画のような緯緋や精巧な紋織、暖かみのある絞りの代表的な作品についてお話します。さらに、アンコール王朝時代にどんな衣装を着ていたかについても探ります。

《龍動物文様緯緋儀礼用布》カンボジア 19～20世紀

日時：12月13日(日)14:00～15:30
会場：ミュージアムホール(定員180名)
講師：岩永悦子(福岡アジア美術館 館長)

ギャラリー A-F 2階

9月29日(火)～10月4日(日)
・第5回写真倶楽部「絆」作品展(ギャラリーA)
・九州産業大学芸術学部出身者の美術展N548 2026(ギャラリーBCD)
・異種四人展+a(ギャラリーE)
・奈古薫 木蓮の会 第23回作陶展(ギャラリーF)

10月7日(水)～10月12日(月・祝)
・復古堂クロッキー教室展(ギャラリーA)
・第56回福岡市高齢者美術展(ギャラリーBCD)
・Alain's Art Gallery(ギャラリーE)
・アルシュ展(ギャラリーF)

10月14日(水)～10月18日(日)
・yuka akinaga 写真展 “Life and We”(ギャラリーA)
・あべいずみ 作品展(ギャラリーBCD)
・第24回ブリマヴェーラの会作品展(ギャラリーE)
・九州藍菊会展(ギャラリーF)

10月27日(火)～11月1日(日)
・西区市民美術展(ギャラリーABCDE)
・第55回 福岡市医師会文化祭美術展(ギャラリーF)

11月3日(火・祝)～11月8日(日)
・第17回シニアネット福岡文化祭(ギャラリーA)
・第24回絵画造形教室おそらのぞうさん作品展(ギャラリーB)
・高取デッサン会人物画展(ギャラリーCD)
・第56回博多人形与一賞展(ギャラリーE)
・第29回石耀展(ギャラリーF)

11月10日(火)～11月15日(日)
・グループ展「jam-よりよりなとき-」(ギャラリーA)
・第47回中央区市民文化祭美術作品展(ギャラリーBCDEF)

11月17日(火)～11月23日(月・祝)
・第21回福岡文化連盟祭り 福岡アートビエンナーレ2026(ギャラリーABCDF)
・日洋会 福岡支部展(ギャラリーE)

11月25日(水)～11月29日(日)
・第46回南区美術展(ギャラリーABCD)
・第23回金曜会 作品展(ギャラリーE)
・「幕末の勤王歌人・野村望東尼と交流した人々の直筆展」(ギャラリーF)

12月1日(火)～12月6日(日)
・花田葉子展 猫がいて、わたしがいる(ギャラリーA)
・第54回九州行動展(ギャラリーBCDF)
・「ねこ五重奏～九州の写真家5人による猫写真展～」(ギャラリーE)

12月8日(火)～12月13日(日)
・第110回 二科展 巡回福岡展(ギャラリーABCDEF)

12月15日(火)～12月20日(日)
・第42回 城南区市民アート展(ギャラリーABCDE)
・藤 敦之 写真展「LIFE WINDOWS ～遺径～」(ギャラリーF)

12月22日(火)～12月27日(日)
・後藤悠介 展(ギャラリーA)
・光景と音景 Inner Pilgrimage ～内なる巡礼～(ギャラリーB)
・平田奈桜 展(ギャラリーC)
・鶴 穂乃花 / 中島 朋美 ふたり展(ギャラリーD)
・瑞泉花楓 展(ギャラリーF)

大王製紙は、環境に配慮した製品を通して、
地球環境に貢献し続けます。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

世界中の人々へ
やさしい未来をつむぐ

大王製紙株式会社

東京都千代田区富士見二丁目10番2号
<https://www.daio-paper.co.jp/>



福岡市美術館ミュージアムイベント協力企業・団体



一歩先を行く発想で、地域に真のゆたかさを。



ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、
今後とも機会あるごとに美術品を収集すること
が不可欠であり、そのための資金として皆さま
から「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による
寄付）を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに！もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ（<http://www.ffac.or.jp/wa/>）またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

MUSEUM SHOP

ミュージアムショップ



首振りこぶうしくん
博多張子

当館マスコットのこぶうしくんが、とうとう博多張子になりました。愛らしい一品です。暮らしの中でも、伝統工芸×アートをお楽しみ下さい。

5,000円(税込)

全長約11cm×幅約6.5cm×高さ7cm



福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館
ウェブサイト

www.fukuoka-art-museum.jp



esplanade AUTUMN 2026 | NO.225

福岡市美術館 季刊誌エスプラナード225号 発行日：2026年10月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社（西日本新聞社）【編集】浅野佳子（nico edit）【デザイン】dictom design【印刷】福岡印刷株式会社【発行】福岡市美術館

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL：092-714-6051（代表） FAX：092-714-6071

【開館時間】9:30～17:30（7月～10月の金・土曜日は9:30～20:00）※入館は閉館の30分前まで。

【休館日】月曜日、年末年始（12月28日～1月4日）※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日